

開講年度	令和8年度	開講課程	博士後期課程
授業名	総合医療医学特別演習		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(放射線医学) 放射線治療 (リハビリテーション医学) リハビリテーション医学、運動療法、理学療法、作業療法、言語聴覚療法 (救急・集中治療医学) メディカルコントロール、救急医療システム (麻酔科学) 周術期		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(放射線医学) 教授 土井啓至、准教授 生駒 顕 (リハビリテーション医学) 教授 幸田 剣、講師 坂野元彦 (救急・集中治療医学) 教授 井上茂亮、准教授 上田健太郎、講師 米満尚史、講師 宮本恭兵 (麻酔科学) 教授 川股知之、准教授 時永泰行、准教授 神田浩嗣	
	薬		
授業の概要	放射線医学、リハビリテーション医学、救急・集中治療医学、麻酔科学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科・外科にとらわれない総合医療医学の各分野における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。		
到達目標	(放射線医学) 放射線治療の基礎を理解する。 (リハビリテーション医学) リハビリテーション医学・医療に関する研究論文を理解する。 (救急・集中治療医学) 救急医療をシステムとして捕らえ、どのような救急医療システムを展開することが、その地域または日本国にとって有益かを考えることができる。 (麻酔科学) 周術期医療に関する論文を理解する。		

<p>授業計画</p>	<p>(放射線医学) 放射線治療についての論文を読み、討議する。また、スライドを用いて放射線治療についての講義を行う。(土井啓至/生駒 顕)</p> <p>(リハビリテーション医学) リハビリテーション医学・医療に関する、最近の研究論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、ディスカッションを行うことで、討議能力の向上を目指す。(幸田 剣/坂野元彦)</p> <p>(救急・集中治療医学) 病院内の診療に加えて、病院前医療の仕組みを法的背景を含めてメディカルコントロール体制に関する理解を深め、我が国の救急医療体制の問題点を抽出する。(井上茂亮/上田健太郎/米満尚史/宮本恭兵)</p> <p>(麻酔科学) 周術期医療における最近の論文を抄読し、最新の研究動向を理解するとともに、研究技能の向上を目指す。またディスカッションを行うことにより、幅広い視点から自ら考察する能力や課題発見力を養うとともに、研究結果の解釈法や発表方法について深く学ぶ。(川股知之/時永泰行/神田浩嗣)</p>
<p>授業の方法・形態</p>	<p>演習を中心とする。</p>
<p>使用するメディア</p>	<p>パワーポイント等によるスライド資料を使用する。</p>
<p>成績評価の基準</p>	<p>研究への取組100% (討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など) によりS (90点以上)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。</p>
<p>授業時間外の学修に関する指示</p>	<p>教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。</p>
<p>オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)</p>	<p>担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>(放射線医学) 特に指定しない。</p> <p>(リハビリテーション医学) 【参考書】「リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版」 監修：一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構 公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 出版社：医学書院 「総合力がつくリハビリテーション医学・医療テキスト」 総編集：久保 俊一、田島 文博 出版社：日本リハビリテーション医学教育推進機構</p> <p>(救急・集中治療医学) 【参考書】「救急医療におけるメディカルコントロール」 監修：日本救急医学会メディカルコントロール体制検討委員会、日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会 出版社：へるす出版</p> <p>(麻酔科学) 特に指定しない。</p>